

兵庫県三田市西部の小学校敷地内でニッポンハナダカバチが営巣

中峰 空

三田市西部に位置する小学校敷地内の砂場でニッポンハナダカバチ (*Bembix niponica*) が営巣していたので報告する。

2014年7月15日, 三田市有馬富士自然学習センターに三田市立小学校教頭から「校内の砂場にハチが多数飛んでいるので調査後駆除してもらいたい」という依頼があった。同日午後, 報告のあった砂場に行くと, 多数のニッポンハナダカバチと少数のヤマトスナハキバチ (*Bembecinus hungaricus*) が営巣しているのを確認した。営巣していたのは運動場の一角にある体育用砂場で, 大きさは長辺 9m80cm, 短辺 5m80cm, 周囲には児童が使用する鉄棒やうんていが設置されていた。

対応していただいた教頭先生によると, 7月上旬ごろから飛び交うハチが目立ってきたとのことであった。また駆除について, 攻撃性は低く近くにいるくらいで刺されることはないと説明したが, 児童が面白がって捕まえて万が一刺されるようなことがあれば問題になるので, 危機管理上できれば全個体を採集してもらいたいとの考えだった。この日は確認のため 1♂, 3♀計 4 個体を採集しただけで一旦撤収した。

翌 16 日, 本格的に採集作業に入った。砂場で捕虫網を持ち待ち構えているとハエやアブを捕まえて巣穴に運び込む様子を観察できた (写真)。ニッポンハナダカバチは幼虫の成長に合わせて獲物を運ぶ随時給仕を行うので, 幼虫のことを思うと採集するのは胸が痛んだが, 今回は仕方がない。



写真 ミズアブの一種を狩ってきた。

密度が高い最初のうちは効率よく採集できたが密度が低くなってくると捕獲効率が著しく低下した。夏の炎天下, 網を振り回すのはさすがに厳しく, 目視できるのが残り 5 個体前後となったあたりで尽き果て, 採集を断念した。最終的に 4♂ 30♀, 計 34 個体を採集した。

後日, 学校関係者から, 数年前に砂場の砂を入れ替えたことを教わった。その砂がどこから運ばれてきたの

か調査を依頼したが, この件は判明しなかった。今回三田市内で発見されたニッポンハナダカバチはこの時に砂と一緒に移入された可能性が高いと考えられる。

本来ニッポンハナダカバチは河川敷や海浜の砂地などに生息し, 兵庫県内では日本海側と淡路島南部で生息が確認されている。生息に適した砂地が災害や人間の諸活動による改変の影響を受けやすいことから, 本種は『兵庫県版レッドリスト 2012』では C ランク, 環境省の『レッドデータブック 2014: 日本の絶滅のおそれのある野生生物 5 昆虫類』では絶滅危惧 II 類 (VU) に分類されている。また 20 都道府県のレッドデータ・レッドリストにも掲載されており, 残念なことにレッドリスト “馴染みの虫” のひとつといえる。

今回の例のように, 砂の人為的な移動に伴う移入と推測される一時的かつ局所的に発生した個体群がどのように推移するのか, また本種の (メタ) 個体群動態に何らかの影響を与えるのか, それとも与えないのかなど, 生態学的な興味は尽きない。

○参考文献

- 兵庫県, 2012. 兵庫の貴重な自然 兵庫県版レッドリスト 2012 (昆虫類). (財) ひょうご環境創造協会, <http://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/JPN/apr/hyogoshizen/reddata2012>
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2015. レッドデータブック 2014: 日本の絶滅のおそれのある野生生物 5 昆虫類. 509pp.

(Hiroshi Nakamine 三田市有馬富士自然学習センター)